

2014

4月号

発行元：NPO法人あさお市民活動サポートセンター

あさお市民活動レポート

平成26年度麻生区地域課題対応事業

「あさお市民活動レポート」第2巻 第8号

発行日：平成26年4月1日

発行人：植木昌昭 編集人：佐々木直子



麻生区地域コミュニティ活動支援事業 応募者説明会 4月24日開催

NPO法人あさお市民活動サポートセンターが 麻生区から業務委託を受けて実施

この事業は平成20年度から、麻生区で活動する市民活動団体などが行う「地域の新たなコミュニティづくりにつながる事業」を支援するために、事業資金を助成しているものです。

平成25年度は公開プレゼンテーションの結果、下記7団体の実施する活動に助成金が交付されました。各団

体は助成金を有効に活用し、日頃取り組みたかった事業を展開しました。

4月24日(木)午後1時30分から麻生市民交流館やまゆりで各団体の取り組み内容が報告されます。また、同日午後4時と6時の2回にかけて平成26年度の応募者説明会が実施されます。

目次	
麻生区地域コミュニティ活動支援事業	1
多文化共生ネットワーク fromあさお	2
あらら企画	2
麻生絵手紙を描く会	3
ひととゆめのネットワーク	3
サロン・ド・シャンソン	4



▲平成25年度公開プレゼンテーション



ひととゆめの
ネットワーク



あらら企画



さんさん会



麻生ふるさと
交流会

平成25年度 地域コミュニティ活動支援事業団体

事業名	団体名
「理科大好き青少年」を育成する科学教育の普及・啓発活動	ひととゆめのネットワーク
がん治療を輝く人生の分岐点に！！	しんゆりリボンズハウス
「ゼロから始める、女を磨く囲碁講座」	新百合囲碁キッズ
音楽でむすぶ地域と親子の絆コンサート	あらら企画
音楽交流サロン「奏(かなで)」	ソーシャル・アーティスト・ネットワーク
ゆる体操でシニアの健康づくり	さんさん会
麻生ふるさと交流会	麻生ふるさと交流会

♥♥平成26年度 募集要項♥♥

♥応募資格：麻生区を活動拠点とする5名以上の組織

♥応募締切：5月21日(水)

♥審査：5月29日(木) 公開プレゼンテーション&審査会で決定

♥応募方法：指定の応募用紙にて郵送もしくは持参

Come & enjoy the multicultural communication!!
インターナショナル・フェスタ from あさお

多文化共生ネットワークfromあさお

共生の一步 多文化を楽しみながら深めた交流

街なかで外国人を見かけることが多くなった。

麻生区には1,859人(2013.12末)の外国人市民が生活している。

3月に開催された「インターナショナル・フェスタ」の会場は、笑顔があふれ、和やかな雰囲気につつまれていた。外国人も日本人も、子ども大人も楽しんでいる。舞台では、華やかなインドネシアのバリダンスやチェコの楽しいフォークダンスなど、民族舞踊や音楽が会場を盛り上げる。各国のブースでは、日本、中国、キルギスなど9ヶ国市民が出身国の「お祝いやお祭り」を紹介し、参加者に囲まれていた。

フェスタを主催したのは、市民グループ「多文化共生ネットワークfromあさお」。麻生市民館と協働で『多文化共生のまち あさお』を推進している。

「楽しそうでしょう。みなさんの笑顔がうれしいです。これが、外国人市民と地域市民の共生の一步だと思っています」と、グループ代表の野口さんは、

150名ちかい参加者のにぎわいに満足そう。

「共生のまち」ってどういう街ですか？と、野口さんに聞いた。「外国人市民と私たち市民が交流していくなかで、お互いの文化や考え方を知り理解し、尊重しながら、共に生活できる、住みやすい街です」。

『『共生』の一步は、多文化を知って、語り合っ、楽しむこと』と、気軽に参加できる交流会、講座、ワークショップなどを開催している。

筆者も、この麻生区がだれにも好かれ、住みつけたいまちになってほしいと願う、市民のひとりだ。

取材・文 石崎純也



”紙でクラトン(灯籠)を作ろう”(タイのブース)
 (フェスタは、麻生市民館と協働開催)

多文化共生ネットワークfromあさお

代 表：野口 周子

連絡先：TEL&FAX. 050-3558-6639

e-mail fromasao@gmail.com

設 立：2011年1月

会 員：22名 (サポートメンバーを含む)
 (女性16名 男性6名)

会 費：入会金/年会費 なし

活動日：不定期

(月1回程度、イベント前は必要に応じて)

活動場所：麻生市民館

* スタッフ、サポーターとも会員募集中！



漢なつきボーカル
 成澤布美子・タヌポン
 大川知子(ピアノ)

2014年2月2日(日)麻生市民交流館やまゆりに、タヌポンが登場(写真)、子どもたちの笑顔が集まる。たぬきの格好をしていたのが、「あらら企画」の代表成澤布美子さん。

元アナウンサーの成澤さんは、地元の音楽イベントの司会を頼まれたことで、地域のアーティストと知り合った。このつながりを大切に、良質で身近なエンターテインメントを提供していくチームとして、2003年4月に「あらら企画」を設立。介護老人保健施設や保育園などでミニコンサートを開催したり、手づくり人形を使って子どもたちによる人形劇を上演したりしている。

あらら企画

音楽で地域の絆をつなぐ

「子育ても人生も『あらら』の連続、たくさんの『あらら』を乗り越えた今までの自分の姿が自分を後押ししてくれる」と前向きに話す成澤さん。

音楽や芝居を地域に提供することで、地域を元気にしていきたいという思いに共鳴して、ボランティアとして協力してくれる元プロのアーティストも多い。

子どもたちとの絆を強め、あらら企画を知っていただき、毎月やまゆりで実施する予定の「あらら企画」のイベントは面白い！とファンが定着してくれたらと語る。

成澤さんの夢は、来年の夏か秋にアルテリオ小劇場で親子向けの音楽劇を上演すること、自分の台本でつくりあげたいと意欲的に取り組んでいる。

取材・文 植木昌昭



あらら企画専属のキッズダンサーズ登場

「やまゆり」での
 コンサート
 4月は13日(日)
 午前中開催！

あらら企画

代 表：成澤布美子

連絡先：☎080-6774-6259

設 立：2003年4月

スタッフ：6人



絵手紙を描く顔彩は日本画に使われている、あさやかで澄んだ色合いが美しい

麻生絵手紙を描く会

講師：橋川芳恵

代表：森田節子

連絡先：☎044-965-2208

設立：2000年4月

会員：29名（男性0名・女性29名）

会費：800円／月（半年分まとめて徴収）

入会金：1000円

活動日：毎月第4水曜日

13時30分～15時30分

活動場所：麻生区内の公共施設

麻生絵手紙を描く会

世界でたったひとつの絵はがきを

毎月1回、区内の公共施設で開かれる絵手紙教室。季節ごとにテーマを決めて、100×148mmの小さなキャンパスに描いていく。3月のテーマは「ひな祭り」。雛人形や桃の花、雛あられに桜餅など、会員は思い思いにモチーフを持参し、作業がはじまる。

講師の橋川芳恵氏は、全国の絵手紙コンクールで多くの賞を受賞し「絵手紙」の本も出版。東京都内・神奈川県内の各所で絵手紙教室の講師をされている。十数年前、郵便局で開催された絵手紙講座に参加したメンバーが、麻生区でも橋川氏の指導を受けられるようにとこの会を設立した。

月一回というゆるやかなペースで続けられている活動。久しぶりに会う人と和やかに会話をしながら、目の前の素材を一心に見つめながら、それぞれの進め

方で作品ができあがっていく。同じ素材でも配置の仕方、構図の取り方はひとりひとり異なり、色使いはまさに十人十色。「下手でも上手でも、楽しく描くことが大切」という絵手紙。講師のその言葉に背中を押され、伸びやかに、素直に筆をはしらせていく。できあがった絵手紙は、世界でたったひとつだけの作品だ。

紙面には 一足お先に 春が来る。

取材・文 佐々木直子



現在は女性ばかりですが、男性の参加もお待ちしています(2014.2.26麻生市民館会議室にて)

ひととゆめのネットワーク

科学教室「紙飛行機を飛ばそう」

そのもの。尾翼、おもりを取付け完成だ。直ぐできた子も、やっとできた子も嬉しそうだ。早々にスマートボールに差し込んだ軸にストローをセットしボールの弾性を推力に、飛行機を飛ばす。あっという間の1時間15分だった。

理科離れが言われはじめて久しいが、この団体は、科学大好き青少年を育成する活動に約15年前から着手した。現在、教室メニュー50種を揃えている。子どもたちが、どのような理科教育を受けているか把握し、理解し易い資料を作成することも大事な仕事だ。授業プランを作成し、教材を準備する。一番苦労するのは教材で使う材料費の捻出だとの事。濱田代表は「色々な苦労も、子どもたちの楽しそうな顔を見るとうれしくなり忘れます。メンバーは子どもたちから元気、生きる力をもらっています」と語る。

この活動を通じて、ひとりでも多く理科に興味を持つ青少年が出てくることを期待したい。

取材・文 吉田清次



放課後、小学1～3年の低学年を中心に6年生までの生徒30名が集まった。麻生区内のある小学校の「わくわくプラザ」。「ひととゆめのネットワーク」が主催する科学教室「紙飛行機(スペースシャトル)・スーパーボール・ロケット工作」のはじまりだ。

ネットワークメンバー5名は白衣を着て先生に変身。まず、飛行機はなぜ飛べるか、安定して飛ばすにはどうしたらよいかの説明。工作に入ると子どもたちの目が輝く。型紙からの飛行機の切出し、山折、谷折、ストローをセロテープで貼り付ける。わからない子は先生に助けを求める。手が止まっている子にはそれとなく手助け。先生の指先を見つめる子どもたちの目は真剣

今回担当した5名のメンバー



ひととゆめのネットワーク

代表：濱田國夫

連絡先：☎044-966-0696(出口博一)

設立：2000年7月

会員：15名

会費：12000円/年(入会金 なし)

活動：定例会 月1回

科学教室開催

川崎、横浜の小・中学校を中心に

年間45～50回開催

各回、メンバー約5名で担当

突撃レポート

ペンとカメラを携えて
記者が行く行く
今日も行く



至福のステージをめざす、ミセスの集い

～笑顔で歌えば、心身ともにリフレッシュ～

活動のきっかけは、23年前の川崎市教育委員会主催の成人学校「シャンソン・季節を歌う」。講座終了後、有志で自主的な研究会、「サロン・ド・シャンソン」を発足、今に至る。

指導はシャンソン・カンツォーネ歌手の庄司淳先生。氏は以前、NHKテレビの歌番組「ステージ101」にレギュラー出演、また「歌のお兄さん」として活躍。現在は数々のカルチャースクールの人気講師として、またシャンソンの祭典「パリ祭」に毎年出演などステージでも活動を続けている。温厚で分け隔てのない誠実な氏の人柄が、この会を長続きさせているという。

レッスンでは、初回に先生自筆の譜面が配布される。原曲を聞き、先生の歌唱、ピアノ伴奏を録音。次の2回はピアノ伴奏で一人ずつ歌う。テンポの取り方や、歌詞にこめる感情などについて、細かな指導を受ける。現在276曲目を習っている。

毎年、初夏に「おさらい会」、12月に「発表会」を行う。発表会は麻生市民館大ホールにて入場無料で開催。700人ほどの観客が詰めかける。この舞台の照明まで会員が受け持つという、徹底した自主運営の会。だからこそ晴れの舞台に向けて、練習のほか衣装選びにも熱が入り、それが結束力にもつながるという。

メンバーは優しい人が多く、楽しい会だ。シャンソン・カンツォーネを歌いたい方、募集中。

取材・文 中島久幸

オー・シャンゼリゼの大合唱でフィナーレを飾る
(2013年12月麻生市民館大ホールでの第22回発表会)



♪ここはテンポを変えて歌いましょう♪
指導する声まで美しい響きがある
(2014. 1. 29 麻生市民館 視聴覚室にて)



練習も終わり、くつろいだ皆さん

サロン・ド・シャンソン

代 表：大嶋治子

連絡先：☎044-986-2641

設 立：1991年11月

会 員：27名（全員女性）

50～80歳代（募集：60歳迄）

会 費：3500円/月

入会費：3000円

活動日：毎月第1・第3水曜日
9時45分～11時45分

活動場所：麻生市民館
・多摩市民館視聴覚室

Information 取材申込受け付けます!

●取材申込受け付けます!

「活動を紹介して欲しい」「イベントを取材して」そんな声に記者が応えます。お申込みいただいた内容については編集会議で可否を検討したうえ、改めてご連絡させていただきます。

●応募条件

麻生区を拠点に活動している。または、麻生区在住・在学・在勤者が活動に参加している。

●申し込み方法

1. 団体名 2. 代表者名 3. 連絡先(電話・FAX・メール)
4. 活動内容(イベントの場合は開催日時・料金・内容)を、「あさお区民記者」宛てにFAXまたはメールでご連絡ください。

FAX.044-951-6467

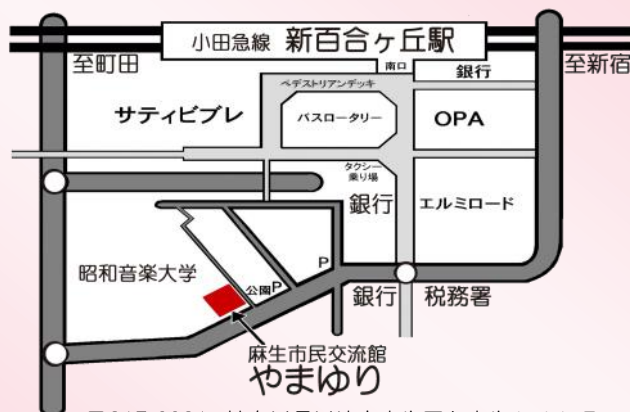
Mail info@asao-ku.net

※但し、選挙、政党・政治団体など政治活動に関わるもの、宗教団体による布教推進を目的とするもの、プライバシーの侵害や業務妨害のおそれのあるもの、差別を助長するものは掲載できません。

あさお区民記者

「区民による 区民のための情報発信」を目的に活動。
過去の記事や取材後記はホームページをご覧ください。

<http://www.asao-ku.net>



〒215-0021 神奈川県川崎市麻生区上麻生1-11-5
Tel.044-951-6321 Fax.044-951-6467
URL <http://web-asao.jp/yamayuri/>
Access 小田急線「新百合ヶ丘駅」南口から徒歩4分